

くす仕事に活躍しました。

明治二十一年（一八八八年）七月十五日午前八時三十分ころ、大音響^{だいおんきやう}とともに、とつじよ磐梯山^{ばんだきさん}が大爆発^{だいはつぱつ}を起しました。まつ黒い煙が大空にひろがり、火山^{ばい}灰と砂や大きな石が雨のように降り、死者四六二、負傷者四十一、灰にうめられた家や全部こわれた家は百戸近くもあるような大きな被害^{ひがい}が起りました。福島にいた岩子は、そのひどいようすを聞くと、すぐに各地の人々に衣類^{いり}などの寄付^{きふ}をお願いし、これを集めて被害者たちにおくりました。またまわりのお寺のおぼうさんを集めて、爆発のときになくなった人たちをなぐさめる法事^{ほふじ}を行いました。

米のねだんは、どんどん上り、ご飯も十分に食べられない人々も出はじめ、人々の生活の苦しみは、ますます大きくなっていききました。岩子は、自分の衣類^{いり}を質^{しち}に入れて米を買い、ご飯をたいて困っている人々に分けあたえることに